

社会に役立つ成果を出していく段階へ

竹内 英（文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長）



冒頭のあいさつを行ったのは、文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長の竹内英氏。同氏は、「本事業は、首都圏の稠密な地震計による観測網でビッグデータを構成し、比較的頻度が高い中規模な地震や大規模な地震の情報を、瞬時に非常に小さなメッシュで提供することで、災害時の事業継続、経済損失を抑える仕組みを実現することを目的としている。この実現に向けて、来年度予算案は今年度から6000万円増額して4.6億円の規模となっており、社会に役立つ成果を出していく段階に近づいていると思っている」と、本プロジェクトへの期待を述べました。

また、内閣府で進められている建築、インフラ、防災を柱とした官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）に触れ、「内閣府でも、PRISMが予算措置されることが決まっており、この枠組みについても参画しながら、企業、自治体とも協力し、本プロジェクトを進めていければと考えている」と話しました。